

感情障害長期経過追跡多施設共同研究 1997 年度

○原井宏明¹⁾ 古川壽亮²⁾ 平井利幸³⁾

北村俊則³⁾ 高橋清久³⁾

1. 国立肥前療養所
2. 名古屋市立大学医学部精神科
3. 国立精神・神経センター

はじめに

感情障害の臨床像・長期経過及び予後に関する研究(3 指-6)に所属する分担研究者が共同して、1)遡及的多数例研究(Extensive Retrospective Study), 2)集中追跡研究(Intensive Prospective Study), 2)多数追跡研究(Extensive Prospective Study)を企画した。いずれも様々な医療機関を受診した患者の中から気分症状を示す例を偏り無く選び、長期経過を調べるものである。平成 6 年に IPS と EPS は感情障害の経過型から見た成因解明と治療法の開発研究(6 指-4)に引き継がれた。平成 9 年度からは本共同研究として行われることになった。

目的

IPS と EPS は次の特徴をもつ。1)前向きコホート研究, 2)様々な医療施設で共同し、軽症例も含めているので対象者は日本の感情障害を代表できる, 3)最初の 2 年間は 1 ヶ月毎に連続して評価, 2)信頼性のある半構造化面接を用いる, 3)多重診断が可能, 4)10 年間の長期経過を追う。この特徴を実現するために、PISA, COALA と称する半構造化面接が開発され、信頼性検定が行われた¹⁾。PISA は初診時に行うスクリーニング目的の面接である。COALA は初診時用と毎月、6 ヶ月毎、1 年毎のそれぞれの時期に行うように用意された合計 5 種類の半構造化面接の総称である。家族歴や既往歴、精神現症、ストレス対処行動などが評価される。

対象

平成 5~7 年度にかけて患者の登録を行った。IPS 24 施設, EPS 10 施設の初診患者(IPS 1978 例 EPS 738 例)を PISA を用いてスクリーニングし、IPS では 126 例(男性:57 例 女性:69 例), EPS では 117 例(男性:58 例 女性:59 人)が登録された。

方法

初診患者に対して PISA と自記式質問票(CES-D, SAS-SR, SSQ)を施行した。登録された症例に対して登録時及び最初の 2 年間の毎月、その後の 1 年毎に COALA による評価と自記式質問票を施行する。受診中断例に対しては電話・郵送などの方法で最初の 2 年間は 6 ヶ月毎、その後は 1 年に COALA による評価を行う。現在もデータを集積中である。

結果

現在、IPS については約 80%, EPS については約 50%が追跡されている。2 年目追跡が完了しているのは、IPS の 101 例である。これまで得られたデータを利用して様々な研究・発表が行われている。以下に研究例を示す。

CES-D 信頼性・妥当性についての検討, カットオフポイントの提案²⁾

本研究で得られた多数例のデータを元に ROC 分析を行い、特異度を重視するなら 42 点以上、感度を重視するなら 25 点以上を推奨している。

大うつ病患者における症状の年齢による差異

高齢になるほど、激越、心気症、末期不眠、貧困感、疲労の身体症状、便秘の症状が増えること、中年期には生殖器症状、他責的傾向が多いことが見いだされている。

大うつ病からの回復過程

単極性大うつ病挿話、双極性大うつ病挿話ごとに生存曲線を描いた所、6ヶ月以内にまだ挿話にある確率はそれぞれ31.9%、14.3%; 12ヶ月で15.1%、14.3%; 24ヶ月で10.1%、0%であった。うつ病挿話全体での持続期間の中央値は、単極性大うつ病挿話と双極性大うつ病挿話でそれぞれ7.0ヶ月、2.5ヶ月であった。

おわりに

症例を偏りなく選択し、長期経過を前向きに多施設共同で行うことは、精神障害の自然経過を知るためには欠かせない方法である。しかし、日本ではこうした研究が少ない。関連する施設の方のご協力をお願いしたい。

参考文献

- 1) Furukawa, T., et. al. (1995). *The Comprehensive Assessment List for Affective Disorders (COALA): a polydiagnostic, comprehensive, and serial semi-structured interview system for affective and related disorders.* *Acta Psychiatrica Scandinavica Supple.* 387, 1-36.
- 2) Furukawa, T., et. al. (1997). *Screening for depression among first-visit psychiatric patients, comparison of different scoring methods for the Center for Epidemiologic studies Depression Scale (CES-D) using receiver operating characteristic (ROC) analyses.* *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 51, 71-78
- 3) Furukawa. T. et. al. (1997) *Application of the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale among first—Visit psychiatric Patients: a new approach to improve its performance.* *Journal of Affective Disorders* 46, 1-13